

西口広場計画

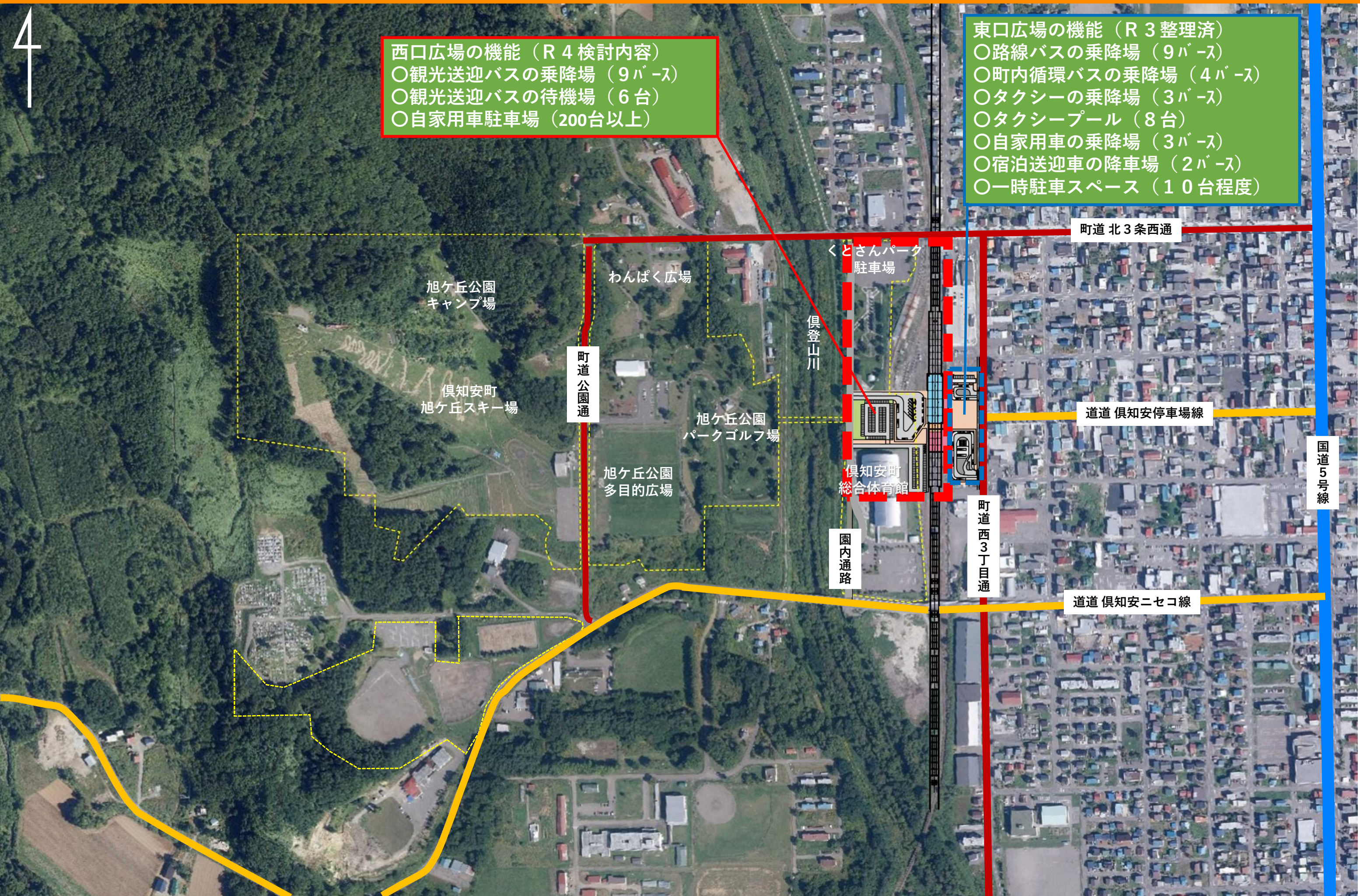
令和4年8月3日

1. 駅周辺区域図

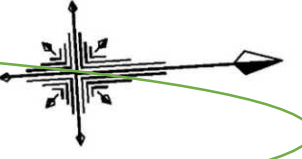
4

西口広場の機能（R 4 検討内容）
○観光送迎バスの乗降場（9バース）
○観光送迎バスの待機場（6台）
○自家用車駐車場（200台以上）

東口広場の機能（R 3 整理済）
○路線バスの乗降場（9バース）
○町内循環バスの乗降場（4バース）
○タクシーの乗降場（3バース）
○タクシープール（8台）
○自家用車の乗降場（3バース）
○宿泊送迎車の降車場（2バース）
○一時駐車スペース（10台程度）



1. 西口広場配置案①



駅舎から旭ヶ丘公園の視線上に
眺望を妨げる構造物がない
(参考資料①参照)

旭ヶ丘公園

平面駐車場:除雪の必要あり
ロータリー:除雪の必要あり

駅舎から第1駐車場:70m
 駅舎から第2駐車場:130m
 ※1番近いマスまで

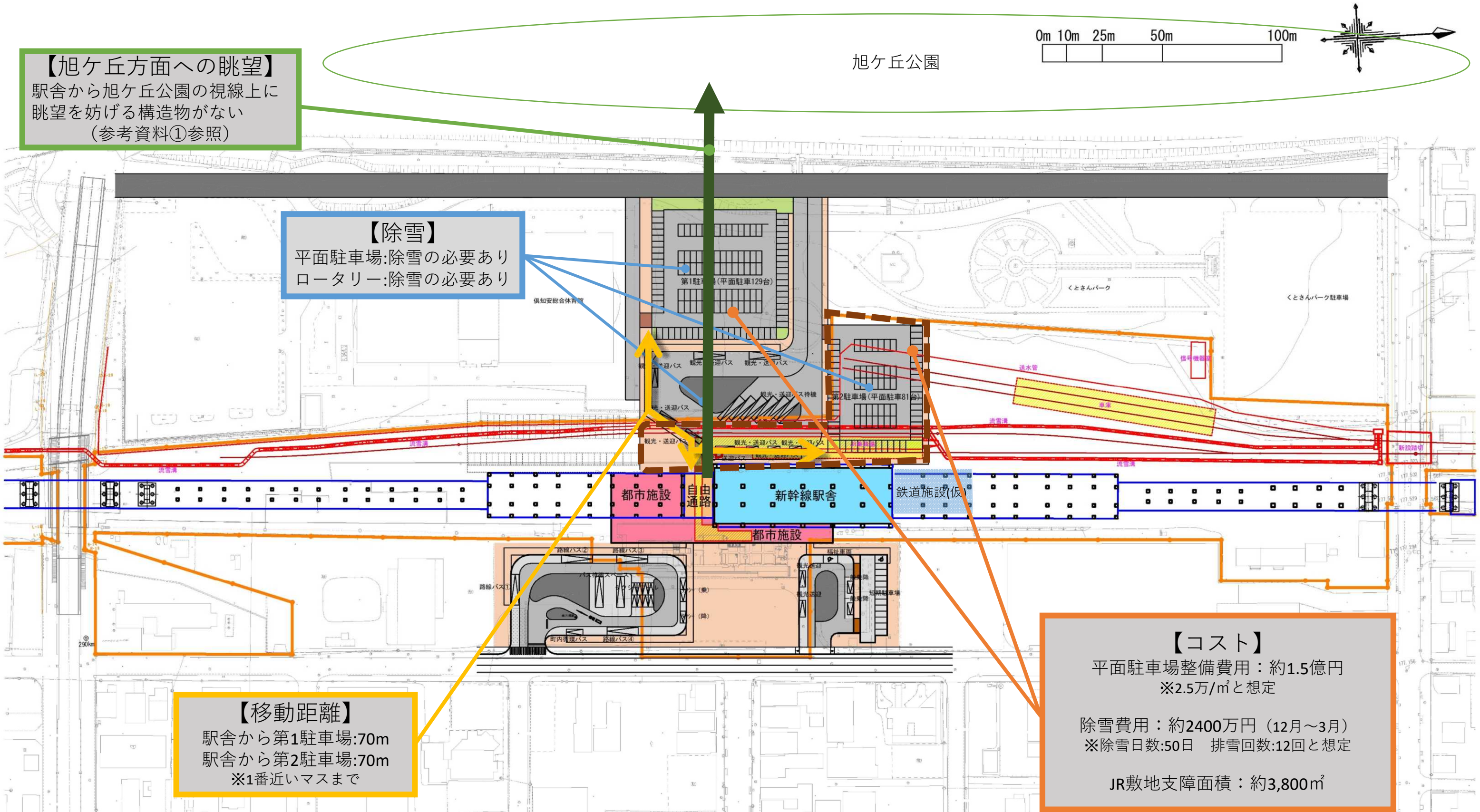
平面駐車場整備費用：約1.5億円
※2.5万/m²と想定

除雪費用：約2400万円（12月～3月）
※除雪日数:50日 排雪回数:12回と想定

JR敷地支障面積：約1,500m²

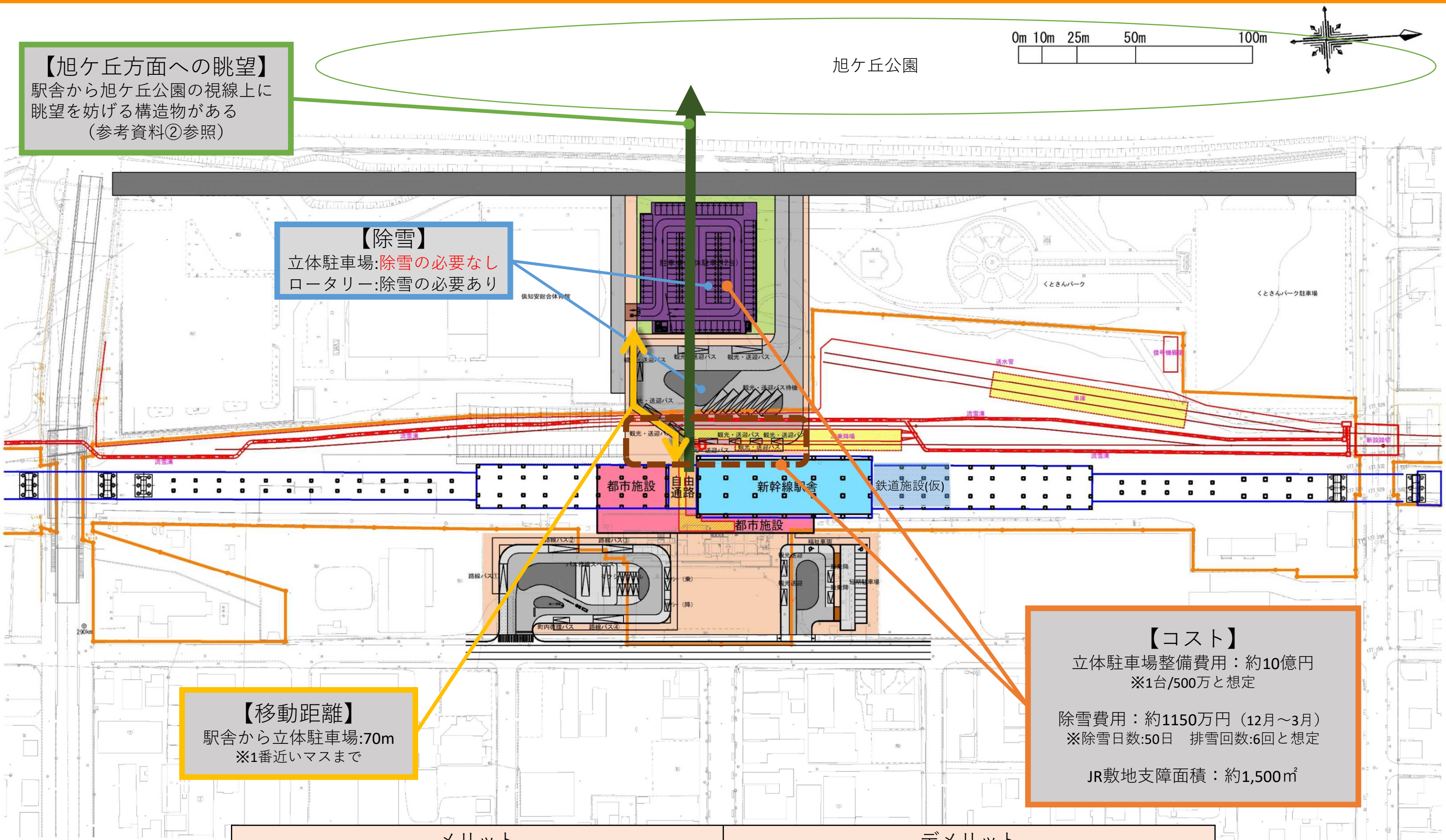
メリット	デメリット
・ 周辺景観の眺望を確保。 ・ 駐車場の整備費用を抑えることができる。 ・ JRから購入する土地を最小に抑えられる。 (案③、⑤、⑥も同様)	・ 駐車場及びロータリーの除雪対策が必要。 ・ 長期間、駐車すると雪に埋もれ、除雪の支障になる。 ・ 第2駐車場から駅までの移動距離が130m歩く。 ・ 利用者にとっての利便性が良くない。

1. 西口広場配置案②



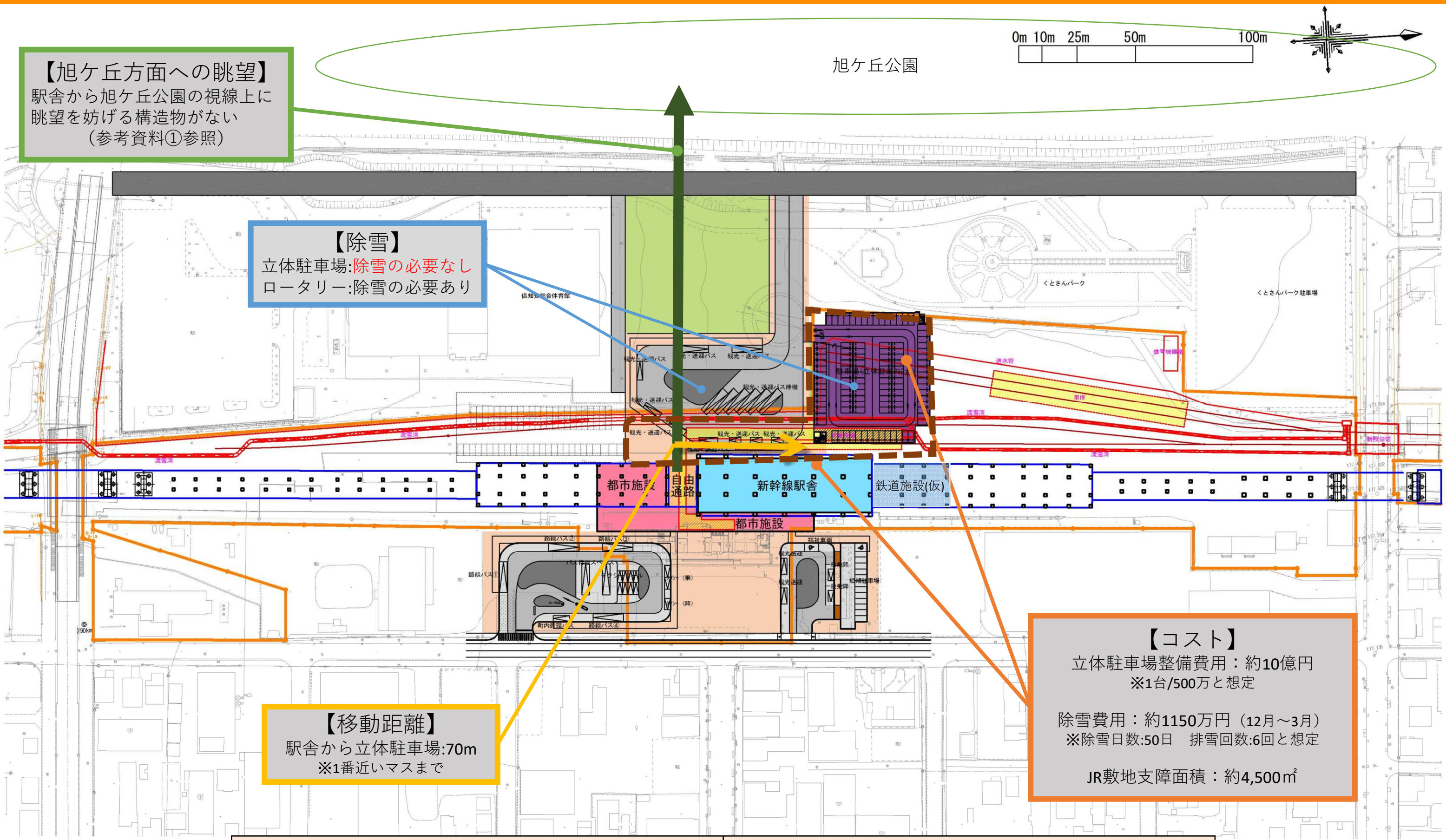
メリット	デメリット
- 周辺景観の眺望を確保。 - 駐車場の整備費用を抑えることができる。	- 駐車場及びロータリーの除雪対策が必要。 - 長期間、駐車すると雪に埋もれ、除雪の支障になる。 - JRから購入する土地が多くなる。

1. 西口広場配置案③



メリット	デメリット
- JRから購入する土地を最小に抑えられる。 (案①、⑤、⑥も同様) - 立体駐車場部分の除雪対策が不要。	- ロータリー部分の除雪対策が必要。 - 利用者にとっての利便性は余り良くない。 - 立体駐車場により、周辺景観の眺望が阻害される。

1. 西口広場配置案④

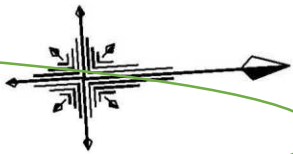
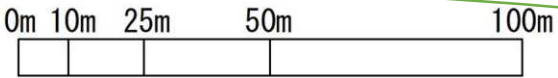


メリット	デメリット
- 周辺景観の眺望を確保。 - 立体駐車場部分の除雪対策が不要。	- ロータリー部分の除雪対策が必要。 - JRから購入する土地が最も多くなる。

1. 西口広場配置案⑤

【旭ヶ丘方面への眺望】
駅舎から旭ヶ丘公園の視線上に眺望を妨げる構造物がない
(参考資料①参照)

旭ヶ丘公園



【除雪】
立体駐車場:除雪の必要なし
ロータリー:除雪の必要あり

【移動距離】
駅舎から立体駐車場:200m
※1番近いマスまで

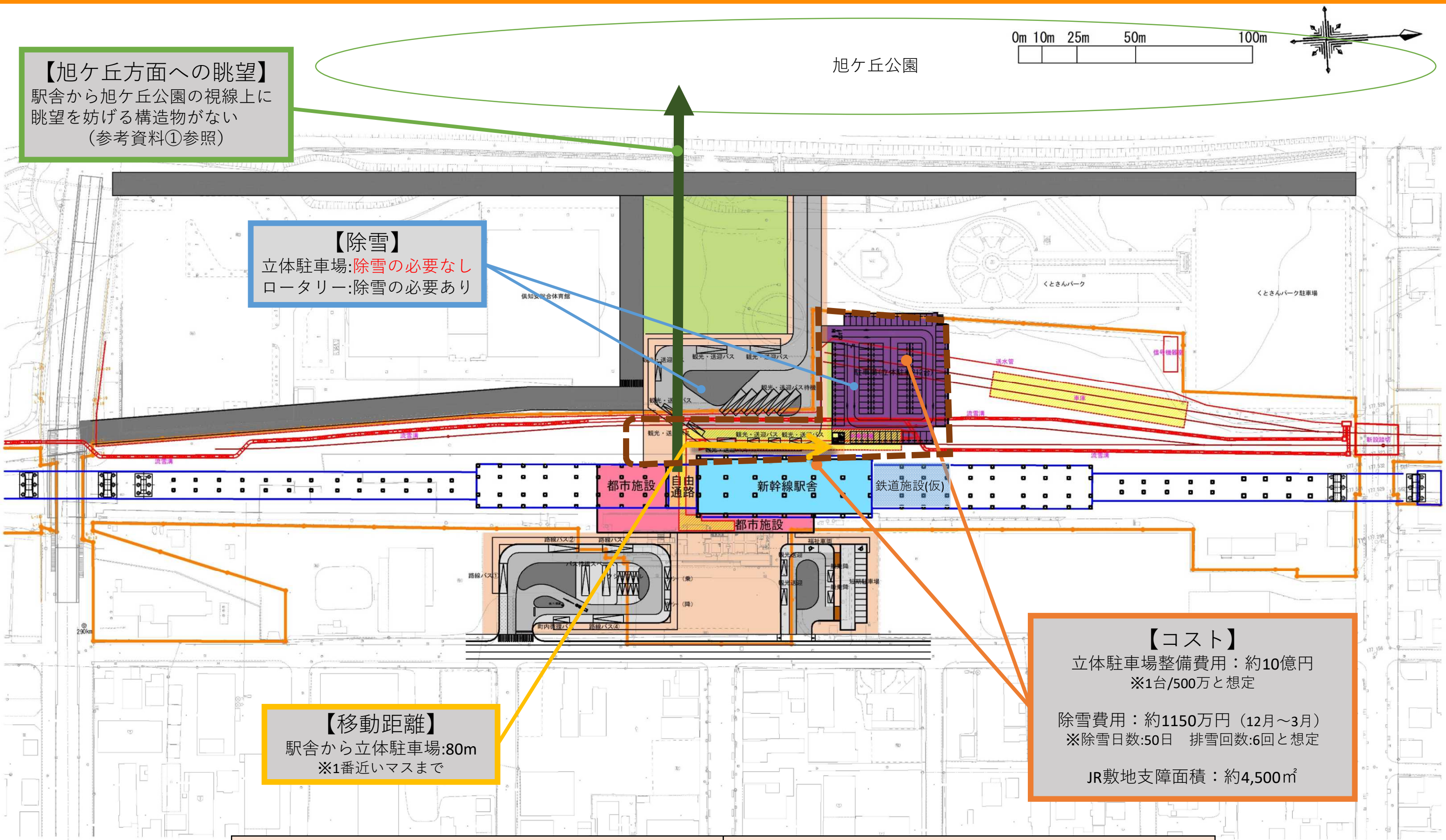
【コスト】
立体駐車場整備費用:約10億円
※1台/500万と想定

除雪費用:約1150万円(12月~3月)
※除雪日数:50日 排雪回数:6回と想定

JR敷地支障面積:約1,500㎡

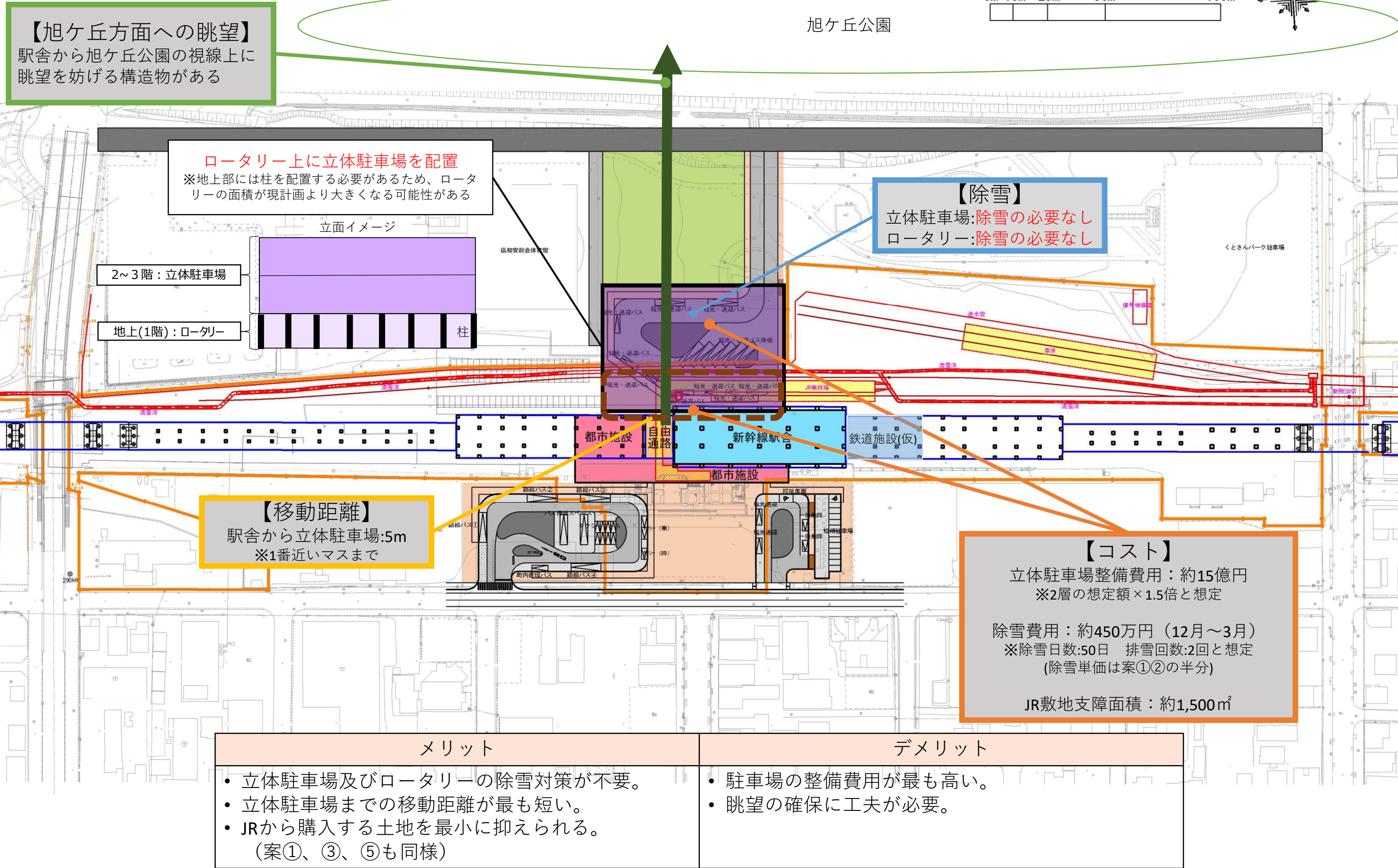
メリット	デメリット
- JRから購入する土地を最小に抑えられる。 (案①、③、⑥も同様) - 立体駐車場部分の除雪対策が不要。	- ロータリー部分の除雪対策が必要。 - 立体駐車場までの移動距離が200mと最も遠い。 - 駐車場利用者にとって利便性が良くない。

1. 西口広場配置案⑥



メリット	デメリット
- 周辺景観の眺望を確保。 - 立体駐車場部分の除雪対策が不要。	- ロータリー部分の除雪対策が必要。 - JRから購入する土地が最も多くなる。

1. 西口広場配置案⑦



1. 西口広場配置案比較表

		案①	案②	案③	案④	案⑤	案⑥	案⑦
除雪 (12月～3月)	駐車場	必要あり	必要あり	必要なし	必要なし	必要なし	必要なし	必要なし
	ロータリー	必要あり	必要あり	必要あり	必要あり	必要あり	必要あり	必要なし
移動距離	第1平面駐車場	約70m	約70m	-	-	-	-	-
	第2平面駐車場	約130m	約70m	-	-	-	-	-
	立体駐車場	-	-	約70m	約70m	約200m	約80m	約5m
コスト (※超概算)	平面駐車場整備費	約1.5億	約1.5億	-	-	-	-	-
	立体駐車場整備費	-	-	約10億	約10億	約10億	約10億	約15億
	除雪費用(年間) ※除雪日数：50日 排雪回数：12回	約2,400万 ※除雪日数：50日 排雪回数：12回	約2,400万 ※除雪日数：50日 排雪回数：12回	約1,150万 ※除雪日数：50日 排雪回数：6回	約1,150万 ※除雪日数：50日 排雪回数：6回	約1,150万 ※除雪日数：50日 排雪回数：6回	約1,150万 ※除雪日数：50日 排雪回数：6回	約450万 ※除雪日数：50日 (除雪単価は案①②の半分) 排雪回数：2回
	JR敷地支障面積	約1,500㎡	約3,800㎡	約1,500㎡	約4,500㎡	約1,500㎡	約4,500㎡	約1,500㎡
旭ヶ丘方面への眺望 (駅舎から旭ヶ丘公園視線上の構造物の有無)		構造物 無し	構造物 無し	構造物 あり	構造物 無し	構造物 無し	構造物 無し	構造物 あり
【参考】 駅前広場の 魅力づけ	活用できそうな 周辺施設 (※全ての案で活用できそうな、 「くとさんパーク」を除く)	・ JR遊休施設	-	・ JR遊休施設	・ 駅前広場の 緑地帯	・ JR遊休施設 ・ 駅前広場の 緑地帯	・ 駅前広場の 緑地帯	・ JR遊休施設 ・ 駅前広場の 緑地帯

参考資料：ロータリー上に立体駐車場を整備した事例【JR下関駅（山口県）の事例】

- JR下関駅（南口）では、駅前ロータリー上に複合商業施設と一体となった立体駐車場を整備している。
- 施設整備のスキームは、1 階の交通ターミナルを市が、交通ターミナル上部の複合商業施設及び立体駐車場を民間企業が施工。
- 当施設の整備にあたっては、国土交通省の「暮らし・にぎわい再生事業補助金」「まちづくり交付金」を活用している。



(出典：大和リース(株)HP)

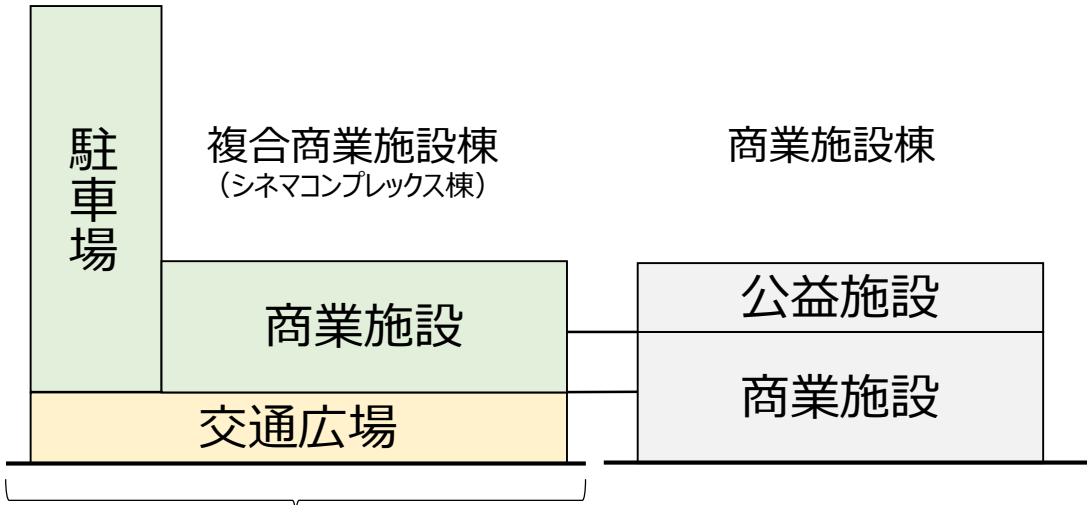
【立体駐車場の概要】

敷地面積	約5,600㎡
延床面積（駐車場のみ）	約7,550㎡
収容台数	253台（身しろう者2台）
構造	5層6段
床形式	連続傾床式
利用時間・駐車料金	24時間営業。30分100円
（参考） 全体事業費	概算24～25億円 ※複合商業施設の整備費も含む
駐車場整備会社	大和リース(株)

【事業スキーム】



立体駐車場棟



土地は、JR西日本から市が購入し、市と下関商業開発(株)で共有
建物は下関商業開発(株)が所有

施工者： ■ 下関市、■ 下関商業開発(株)、■ JR西日本不動産開発(株)

参考資料：下関駅（南口）



(出典：大和リース(株)HP)



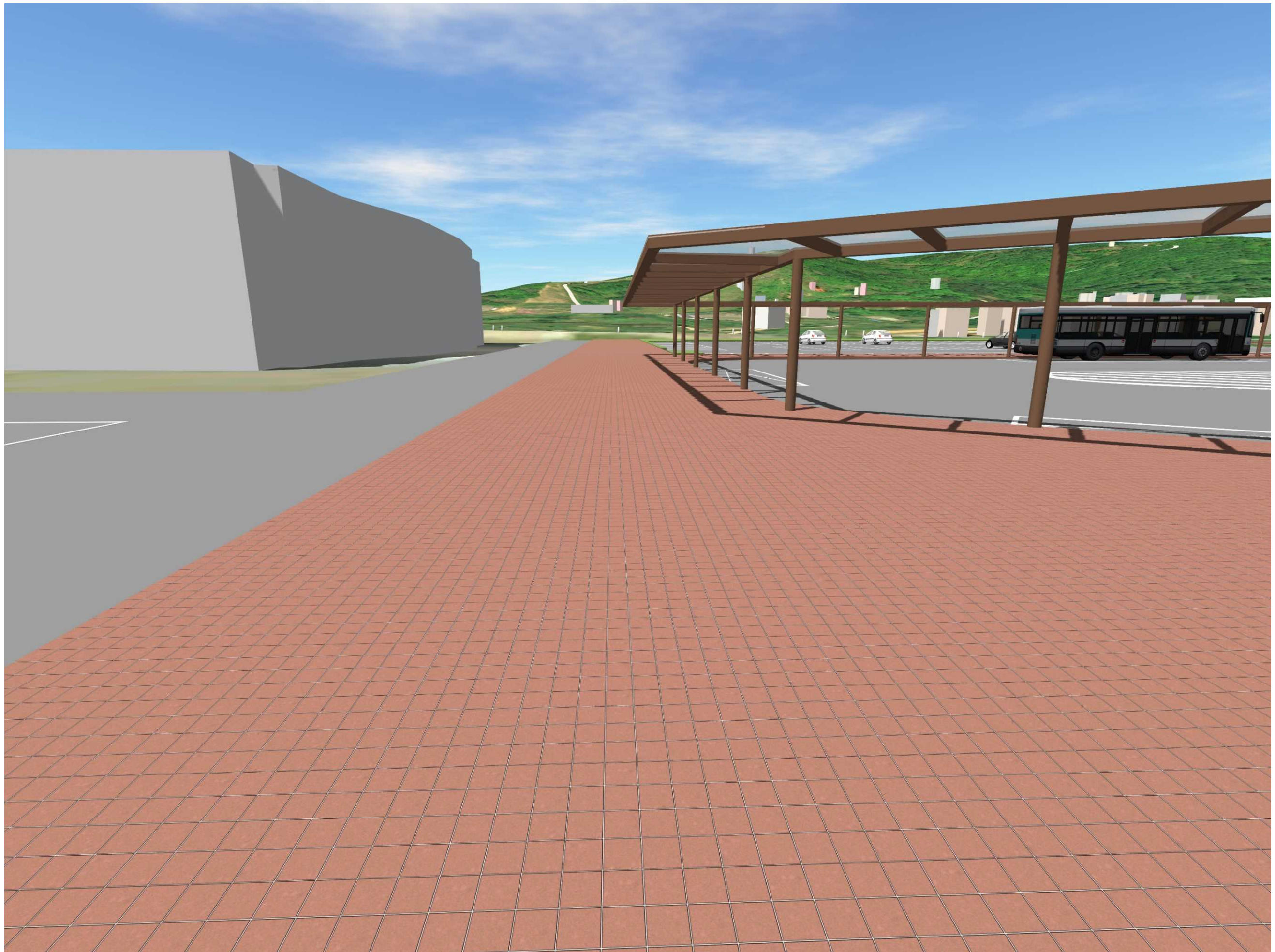
(出典：大和リース(株)HP)



(出典：大和リース(株)HP)



(出典：大和リース(株)HP)





参考資料③：鉄道の歴史を伝えるギャラリーの事例

JR西日本山陰本線 福知山駅

公園内に建てられた東屋の鉄柱は、2005年まで福知山駅のプラットフォームの屋根を支えていたものを流用している



JR山陰本線・境線 米子駅

駅前広場にモニュメントと説明版を展示している

